事例の情報	氏名： T.Y　 性別：女性　年齢：65 身長：160㎝　 体重： 45Kg
人生経過	双子の姉とは大学まで一緒。結婚後、子ども（男２人）をもうけ、 子育てしながら実家の家業である社員食堂で姉と一緒に６０歳まで働いてきた。仕事で子どもが２人とも東京へ行ってしまう。 ご主人が仕事を辞めたと同時期に、自身も実家が経営している食堂の仕事を辞める。
様子が変わってから 来院時までの経過	５年前。 子どもが東京へ行ってから、ややふさぎ込んでみ、もの忘れが悪化。
初見時の様子・印象	夫に付き添われて来院。 夫が一方的に説明し、本人はあまり話さない。 子どもが東京に行ってしまって寂しいと涙をみせて話す。 服装は膝上のスカートを履き、若い服装をしている。
他の疾患	盲腸、子宮頸癌（全摘）、リウマチ
生活環境	夫と（犬２匹と）戸建てで２人暮らし。 夫は元会社経営(現在は引退）しており、経済的には裕福。
服薬状況	レミニール
家族の困りごと	何度も同じ事を尋ねる。料理を作れなくなる。 アドバイスにふくれて、言う事を聞かない。 自分1人で行動できない(喫茶店、姉に会いに行けない)
生活状況	家事は本人がこなしているが、料理は以前の様に作れなくなった。 犬の散歩に一日２～３回出掛けている。 治療後に週１～２回ヨガを始める
食事	朝食は元々パン。料理を作れない時はモーニングを食べに行く。 昼食も夕食もパ外食。 水分摂取量：600～700ml
身体状態	身体が固い。散歩以外に身体を動かす機会はない。特にコリや痛みを感じているところはない。

検査結果 (MMSEや長谷川式など)	MMSE：時間の見当織、シリアルセブン、遅延再生に間違い多い 4月30日：18点　　6月9日：24点　　11月18日：18点
現在の治療内容	前頭葉、注意機能に対する卓上、腎臓、十二指腸、腸、肝臓への内臓治療、頭蓋治療、ヨガ等の体操、リズム体操、水分摂取、食事療法
治療経過	開始時、卓上療法では夫や治療者にすぐに答えを聞いたり、確認する姿が多く認める。 治療者が間違えても良いから自ら判断するように何度も伝える。 それ以降は積極的に課題へ取り組み、改善していたが、治療者に慣れると依存的になってきている。卓上療法で分からない箇所があると「混乱してきちゃった」と甘える。 その後再び、治療者やご主人への依存傾向は減っていたが、11月になってから再び依存傾向が若干強くなる。
改善した症状	卓上療法などで、自分で物事を判断するようになってから、検査以外で日時を尋ねれば答えることができる。 料理を自ら作れるようになった。 もの忘れも治療前に比べたら減っている。
生活変化	簡単なものを頑張って料理を作るようになった。 (炒め物などを作る) 外食の機会も減り、朝食はご飯もへ切り替える。 水分摂取量は1,500mlへ。
課題	抗認知症薬の断薬 依存傾向がなくなったり、再燃したりの症状の波を減らす。 1人でできることを増やしていく。